

高品質と工期短縮の両立 ー全工程を見通したムリとムダのない計画で供用開始を9ヶ月早めますー

1 耐震性能を確保した仮庁舎の早期完成

- 耐震性能が不足している現庁舎から一刻も早く移転できるように、敷地内の仮庁舎を早期に完成させます。
- 仮庁舎は人工地盤（広場・駐車場）を基礎として、耐震性の高い建築とします。仮庁舎のためだけのコンクリート基礎が不要になり、工事費が縮減され、設置と撤去の工事期間も短縮されます。
- 人工地盤は実施設計までを先行して平成29年度に完了させ、平成30年度には仮庁舎を着工できるようにします。

2 適切な工法と材料による工期短縮

- 新庁舎はRC造（鉄筋コンクリート造）、SRC造（鉄骨鉄筋コンクリート造）、S造（鉄骨造）の特性を生かしながらバランスよく組み合わせ、剛性を確保しながら軽量化できる構造体とし、工期短縮と工事費縮減を図ります。
- プレキャスト化、ユニット化など工場製作の材料を多く使い、現場作業を最小限にして労務費を縮減するとともに工期を短縮します。
- 使用材料の種類を少なくし、同一サイズの繰り返しが多くなるようにして、施工性を高め、工期短縮と工事費縮減を図ります。

3 100件を超える庁舎の実績を踏まえ詳細な工期設定

- 品質確保に必要なコンクリート打設後の養生期間や、安全確保のための施工手順が遵守できる、ムリのない適正な工期とします。
- 杭工事は工事着手の直後に開始されます。杭の適切な工場制作期間の確保できる時期までに、元請発注用の設計図書を作成します。
- 仮庁舎、新庁舎、それぞれへの引越期間はゆとりをもち1ヵ月確保します。解体前に行う備品等の整理処分や、本体工事完了後に行う付帯工事が適切に行えるようにします。

4 明快な工区分けによる安全確保と仮設の合理化

- 敷地を南北に分割して新築と解体を繰り返す中で、敷地中央の仮囲いの位置は全く変えずに工事が進められるようにして、仮設工事の合理化を図ります。
- 南北二つに分かれる敷地のそれぞれの出入口は、南側道路と西側道路の離れた位置に設置し、工事車両と市民・利用者動線を明確に分離できるようにして市民の安全を第一にします。

5 難易度の高い法令手続きを円滑に進めます

- 人工地盤（広場・駐車場）の確認申請と仮使用、人工地盤に設置する仮庁舎の仮設許可、人工地盤の工事と併行して行う新庁舎の確認申請手続き等、提案内容の法令手続きの適法性は指定確認審査機関に確認しております。
- 仮庁舎の仮設許可はリース会社が行います。仮庁舎の基礎設計をはじめ仮設許可の法令手続きがスムーズに進められるように、人工地盤の設計時にあらかじめ行政協議を十分に行い、法令解釈と工事区分を明快にした性能要求書を作成します。

